



研究部会報告

● ソフトコンピューティングと OR ●

日時：2月16日(土) 13:30~16:30

出席者：9名

場所：大阪大学工学部 P1-212 教室

(大阪大学吹田キャンパス)

テーマと講師：

(1)「Muth meets Tiebout under Agglomeration Economy: When compact city emerges?」

黒田達朗 (名古屋大学)

概要：人口減少や環境面から、限定された空間に高密度で居住すべしというコンパクトシティの概念が主張されている。このような人口分布が、資本と家計の自由な移動を前提としたとき、どのような条件の下で実現するかを、住宅、集積の経済、地域間競争を取り入れた数値実験によって分析し、さらに社会厚生上の問題点を示した。

(2)「複合的樹枝構造による不確実性下の決定分析」

瀬尾美巳子 (京都大学)

概要：不確実で多様な経営環境下の戦略的な問題解決のための支援システムとして、決定分析における樹枝構造分析 (DTA) の多目的拡張と、情報のあいまい性を考慮した複合的な多段階構造の構築について論じた。まず最近の OR 研究における決定分析の現状について問題点を探り、最後にコンピュータ支援システムの利用を紹介した。

● 不確実環境下での柔構造最適化モデリング ●

日時：2月23日(土) 13:30~16:30

出席者：8名

場所：千葉大学理学系総合研究棟 (1階 105室)

テーマと講師：

(1)「Financial modeling under Uncertainty Theory」
Baoding Liu (Tsinghua University, China)

概要：ファジイ理論において、確率論における確率測度の役割を果たすものとして可信性測度を導入した。これと確率測度とから機会測度、更に不確実測度を定義した。これらの測度に応じて、複数の不確実過程を定義し、これら不確実ファジイ過程を用いてファジイ金融モデリングを行った。

(2)「再生核ヒルベルト空間とその応用」

斉藤三郎 (群馬大学)

概要：ヒルベルト空間の枠で、線形写像を考えると自然に再生核の理論に結びつき、線形写像の逆の構成や構造を調べる基本的な役割を果たす事を述べた。次に再生核の基本的性質、具体的な応用特に、有界線形作用素方程式のティコノフ正則化法への応用を紹介し、さらに非線形システムの同定や逆について紹介した。

会合記録

3月18日(火)	機関誌編集委員会	12名
3月25日(火)	論文誌編集委員会	15名
3月26日(水)	研究普及委員会	15名